

第1号議案 令和2年度事業報告承認の件

令和2年度事業報告書

自 令和2年 1月 1日
至 令和2年12月31日

一般社団法人 日本書道院

当法人の令和2年度に於いて実施した事業は次のとおりである。

1. 第69回日本書道院展

4月2日(木)～8日(水)の間、東京都美術館で開催するために搬入・審査・入賞通知も発送し、4月1日の陳列作業も終了。折しも新型コロナウイルスの感染が2月以降増加する中、陳列作業終了後に東京都美術館側から感染拡大防止への協力要請で、展覧会の開催自粛の依頼がありました。美術館館長・担当課長・係長と中村会長が2度にわたり協議し、日本書道院としては開催したい旨を伝えました。その後、着任直後の副館長が加わり、改めて開催自粛の強い要請をしに会場事務室に訪れ、夕方5時過ぎまで長い協議になりました。結果は残念ながら公開中止にせざるをえませんでした。

多くの来場者を待つのみでしたが、北口からの本院関係者のみへの開放となりご迷惑をおかけしました。1123点が陳列された会場は日本書道院らしい品格のある作品が並び例年以上の展観でした。急遽会場風景を動画撮影し展覧会終了後にホームページで公開しました。アクセス頂き視聴した多くの方には好評でした。

4月7日に予定していました表彰式・「出品者の集い」も中止ということになりました。

本年4月開催の第70回展は記念展です。69回展の文部科学大臣賞以下の上位入賞作品の再展示も計画しております。皆様には一層多くの出品をお願いいたします。日頃の実力発揮の場です。意欲ある作品作りに取り組みましょう。

なお、令和4年からの東京都美術館利用も、4月の第1週に認められましたので、報告いたします。

2. 第69回全国学生書道展覧会開催と表彰式

全国学生書道展覧会も日本書道院展と同様に作業を進め、4月2日から多くの笑顔が来場するのを待つばかりでしたが、1,727点の陳列を終えた後に、開催自粛を求められ、こちらも公開中止となりました。ご出品いただいた生徒・保護者

の皆様にはご迷惑をお掛け致しました。学生書道展覧会の映像も日本書道院展と併せてホームページに公開し、多くの方からアクセス頂きました。感謝申し上げます。

69回展の、文部科学大臣賞・埼玉県知事賞・会長賞・日本書道院賞の作品は、70回展の会場で再陳列いたしますので、改めてご覧ください。

3. 第8回100人展・第37回選抜展・第12回同人展

11月24日（火）～29日（日）までの間100人展をセントラルミュージアム銀座と、フェニックスホールで選抜展・同人展を開催した。出品総点数は343点、コロナ禍の中で多くの方々にご出品いただき感謝申し上げます。

100人展会場は上質の作品が品よく陳列され、日本書道院を代表する作家の、漢字・かな・詩文書が来場者を迎えました。選抜展・同人展も会場レイアウトを生かした陳列で見やすく作品の質をより高めました。今年は100人展キャプションにQRコードを表示し、スマートフォンで作品の詳細情報が検索できるシステムを導入しました。一般の書道団体としては初めてのことで、関係各方面から大きな評価をいただきました。

今回は、社会の状況から受付を設けず、来場者には順路に沿った鑑賞をお願いする初めての試みを試みましたが、日本書道院の一年ぶりに公開した展覧会は、多くの方々に来ていただき好評を得ました。来場者の集計は行いませんでした。

懇親会は中止としましたが、記念品として100人展・選抜展出品者には特製マスクを送りました。また、来場できない方を考え、展覧会風景を動画でホームページに公開しました。

4. 第72回毎日書道展

毎日書道展の作品締切や搬入・鑑別審査等が緊急事態宣言の期間中となり、毎日書道会の決断で、第72回展は令和3年に延期となりました。委嘱されている当番審査員はそのまま担当頂くこととなります。総務部・審査部等の展覧会委員も含めて、三密を防ぎ、コロナウイルスへの感染防止を考慮しながら、例年と若干異なる日程となりますが引き続きご協力願います。各種日程は改めて発表になります。

5. 支部長会

6月14日（日）と11月10日（日）に予定した第38回と39回の支部長会は、日本書道院会館での三密を避けるために、例年の試験課題資料に併せて、昇段級

作品の揮毫動画をDVDにまとめて、支部長や受験者の希望者へ頒布しました。

中村会長と成田常務理事の揮毫しながらの解説は大変分かりやすいと好評でした。支部長が集まることも大切ですが、時節に合わせた工夫で今後も対応していきたいと考えます。

6. 研修旅行

9月に中国研修旅行（西安・洛陽・漢中）を計画していましたが、3月の段階で、海外渡航の制限等が実施された段階で、日本書道院としての研修旅行は中止としました。なお、本年は現状では未定となっています。

7. 錬成会の開催

日本書道院展・毎日展及び選抜展・同人展出品者の指導と研修を目的に、例年通りの規模で錬成会を予定通り開催できたのは

1月26日（日）～27日（月）台東区民会館 参加者137名
でした。

3月14日（土）に予定していた研修会は規模を縮小して、日本書道院会館で開催いたしました。講師と事務局・業者を加えて32名の参加でした。

7月30日（木）に台東区民会館で予定していた、100人展・選抜展・同人展に向けた研修会は日程の変更等も検討しましたが、コロナウイルスの第2波を考慮し郵送による添削のみにいたしました。

12月26日（土）川口リリアで開催した第70回記念日本書道院展並びに第72回毎日書道展向けの研修会は、講師・事務局・業者とあわせて参加者45名でした。

なお、下記の各支部主催による錬成会の開催予告を「日本書道」誌上に掲載し、多くの受講者が参加され成果を収めた。講師は本院から派遣した。

開玄社 相峻会 水光会 玄同社 祥祇会

8. 師範・準師範・昇段級受験者のための研修会

9月3日（木）、師範・準師範・昇段級試験受験者を対象とした研修会も、多くの方が集まることを避けて、郵送による添削指導のみといたしました。添削指導を受けた方全員が合格・昇格いたしました。

9. 同人昇格者推薦証・師範合格認定証交付式及び同人展表彰式

12月6日（日）同人昇格者19名、第62次漢字・かな及び第20次詩文書の師範と第4次硬筆部師範に合格され89名に推薦証並びに認定証の交付を行う予定です。

したが、政府や各自治体からのコロナウイルス感染拡大防止への協力要請の報道を受けて、残念でしたが中止にしました。

別の機会に昇格者・合格者・受賞者を紹介したいと考えています。

10. 機関誌「日本書道」の刊行

昭和32年11月創刊以来、令和2年12月現在をもって通刊758号を数え、12月号の発行部数は4,400部である。

11. 関係文化団体との協力について

関係文化団体との連絡提携には格別の意を用いている。公益社団法人全日本書道連盟は維持団体、一般財団法人毎日書道会は参加団体、一般財団法人日本中国文化交流協会は特別会員として加盟している。

なお、中村雲龍会長は全日本書道連盟副理事長・毎日書道会顧問・日本中国文化交流協会常任委員として協力している。また6月に三宅相舟副会長は毎日書道会監事に就任した。

12. 会員との連絡について

会員との連絡については、機関誌「日本書道」を通じて周知徹底を図っているが、別に重要な事業については直接会員に通知している。なお、12月1日現在の会員名簿を作成したが今回は全会員には配布しない事にした。

13. 会報の発行

12月18日付をもって「会報」43号を発行した。

14. 役員会及び各種委員会の開催

役員会6回 各種委員会・打合せ会6回

15. 支部の指導と地方展の後援

支部の行事と地方展に対する指導後援は次のとおりである。

(1)	1月	開玄社書展	1月	静書会書展
	2月	祐正社書作展	3月	くれない会書展
	10月	葵心会書展	11月	研精会書作展
(2)	1月	東京相峻会大字研修会	1月	玄同社錬成会
	2月	広島相峻会錬成会	2月	祥祇会錬成会
	7月	開玄社作品研修会	7月	水光会作品研修会

16. 会員数

12月31日現在の本院の会員数は1,479名である。

17. 令和2年12月末現在の役員は次のとおりである。

常任顧問	高橋 静豪	北島 露光
	堀 雅峯	宮崎 呂鷺
顧問	石塚 秀石	金子 子薫
	神谷 京子	中塚 博子
	吉田 清翠	
会長理事	中村 雲龍	
副会長理事	三宅 相舟	遠山 白雲
常務理事	稲葉 如龍	斉藤 龍堂
	成田 寿苑	
理事	青砥 相蓉	市川 嘉泉
	青荻 野静	駒崎 流芳
”	白石 東苑	菅谷 志水
”	細瀨 柳青	本堂 耿苑
”	山田 白苑	
監事	小泉 瑤伸	矢島 虹周
	中村 忠雄	

令和2年度事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定している附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成していません。